

長く続いた梅雨が明け、蒸し暑い夏がやって来ましたが、気づけば秋が近づいてきています。今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により様々な催し物が中止となってしまいましたが、開催できる催し物は3密を避けながら楽しみましょうね。今号では豊橋文化祭開会式典やお月見会、豊橋総合いけばな展[秋]などについてご紹介します。

豊橋文化祭2020年10月～11月 文化祭開会式典を開催します。

10月、11月は豊橋文化祭月間として、いけばな展や音楽連盟コンサートなど様々な行事が行われます。豊橋市及び豊橋文化振興財団では、その幕開けとして9月26日(土)に開会式典と記念公演を行います。式典では、豊橋の文化振興に関して顕著な功績を残した方に贈られる豊橋文化賞、そして今後の地域文化振興に大きく貢献することが期待される方に贈られる豊橋文化奨励賞などの贈呈式を行います。

とき ● 令和2年9月26日(土) 14時～ ところ ● 豊橋市民文化会館ホール

- ▶ オープニング公演 / 日本壮心流
- ▶ 表彰 / 豊橋文化賞及び豊橋文化奨励賞、地域文化振興活動功労賞及び郷土文芸作品
- ▶ 記念公演 / 豊橋交響楽団によるアンサンブルコンサート
- ▶ 入場料 / 無料(要整理券)
- ▶ 整理券配布 / 9月1日(火)から豊橋市役所「文化のまち」づくり課、豊橋市民文化会館、穂の国とよはし芸術劇場1階窓口にて配布します。
- ▶ 問合せ / (公財)豊橋文化振興財団 ☎0532-39-5211

第47回お月見会(ステイホーム)

毎年「中秋の名月」の日に開催している「お月見会」です。「月」をテーマに俳句・短歌・川柳を作る催しです。当日は会場として三の丸会館を午後8時まで開放しますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大にともない、極力ステイホームで詠んでいただくようお願い申し上げます。例年行っていたお抹茶の提供時間の延長や和楽器演奏もありませんが、それぞれの家から見える月の美しさに想いを馳せ、俳句・短歌・川柳を詠んでぜひ投稿してくださいね。

とき ● 令和2年10月1日(木) 17時～20時

ところ ● 三の丸会館(豊橋公園内)

※極力ステイホームでお願いいたします。

部門 ● 俳句の部、短歌の部、川柳の部

- ▶ 投稿用紙 / 三の丸会館、豊橋市民文化会館、PLATにて配布
- ▶ 投稿期間 / 10月1日(木)～7日(水)
- ▶ 投稿方法 / お月見会当日または投稿期間中、三の丸会館に設置の投稿箱にお入れいただくか、官製はがきで三の丸会館までご郵送ください。

【昨年特選作品】

川柳の部: 立ち直る兆しが見えて気付く月	松井則雄
俳句の部: 名月や保線工夫の影あらは	大河美智子
短歌の部: 相槌の聞こえる距離に夫と居て	
静かにのぼる名月を待つ	神藤生子

豊橋総合いけばな展のご案内

豊橋総合いけばな展では歴史ある各流派の作品の数々をお楽しみいただけます。ぜひご来場ください。

とき ● 令和2年10月17日(土)・18日(日) 10時～16時
ところ ● 豊橋市民文化会館2階展示室

▶ 出展団体 / 小原流、南宗流、真生流、日本生花司松月堂古流、花芸安達流、日本華道松月、天生流、嵯峨御流、華道家元池坊(順不同)

▶ 入場料 / 無料

▶ 問合せ / (公財)豊橋文化振興財団 ☎0532-39-5211



『こびとが打ち上げた小さなボール』

チョ・セヒ 著、齋藤真理子 訳 河出書房新社

愛知大学 文学部 現代文化コース メディア芸術専攻特任教授 吉野さつき

1970年代のソウルを舞台としたこの小説は、韓国で40年以上に渡るロングセラー、ベストセラーとなっている。著者のチョ・セヒは軍事政権下の韓国でこの小説を執筆した。政府と資本家による急激な経済発展が進む一方で、生産性のみが重視され人間性が踏みじられる。この物語はそのような時代を背景に、最下層で生きる労働者、差別と偏見に晒される障害者、彼らとは真逆の生活を送る富裕層、富裕層に憧れる中間層、それぞれの視点から多層的に人間の欲望、生への欲求、虐げられた者たちの怒りと悲しみを描いている。

物語の軸となる「こびと」一家。父親は身体障害者で「こびと」だ。彼らの周りには「いざり」「せむし」といった登場人物がいる。彼らはスラムの再開発により強制的に住む場所を追われる。「こびと」の長男は工場で過酷な労働を強いられ、「人間として扱われる」ことを求め抵抗運動に傾倒していく。

息子をエリートコースに乗せようとする父親に反発する青年ユノは、労働者問題に関心をもちながらも何も行動を起こさず無力感と諦めを抱えて生きている。ユノが出会う財閥の娘は、慈善的な運動に関わりながらも現実起こっている悲劇を知ろうとはしない。

異なる境遇の登場人物たちによって語られる物語は、幾つもの短編小説として書かれている。記者のあとがきには、そ

れらは複数の雑誌や新聞に散発的に発表されたことである。理由は検閲を免れるためだ。長編として連載し禁となれば書き続けることもできないが、短編であればその被害を最小限にできると考えたからだという。この手法が小説全体に独特の構造と面白さを与えている。搾取る側とされる側、差別する側とされる側、同じ世界にしながら分断されている人々の物語は別々でありながら全てどこかでつながっている。

物語は暴力的とも思えるほど過激だ。しかしそれを語る言葉は深い詩情に満ち、美しく、美しい。隣国の過去を描いているが、日本の過去のようにも現在のようでもある。巧妙に隠されてきた格差が既に露わとなり、様々な制度破綻と新たな分断が始まっている今、この小説は人間の尊厳について、私たちに改めて問いを投げかける。

最後に一人の高校教師が生徒たちにこう話す。「叫ぶのはいつも死者だけなのか? さあ、もう時間だ。地球で生きようと、他の惑星で生きようと、我々の精神はいつだって自由なのだよ。」この「自由」を、今私たちは守ることができるだろうか?



(公財)豊橋文化振興財団主催・共催事業 催し物中止・日程変更のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大にともない下記の催し物が中止・日程変更になりました。大変申し訳ございませんが、何卒、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【中止】

- 9月6日(日) 茶道クラブ月例会茶会(担当 表千家清和会)
- 9月27日(日) 伝統文化こども発表会
- 9月30日(水)～10月4日(日) 第53回表装美術展
- 10月18日(日) 愛知県民茶会
- 10月25日(日) 第63回邦楽大会 詩吟の部
- 11月1日(日) 第63回邦楽大会 民謡・大正琴・三味線の部 箏曲・長唄・尺八・小唄の部

- 11月8日(日) 第63回邦楽大会 日本舞踊の部
- 11月11日(水) 第52回コーラスのついで
- 11月15日(日) 第63回邦楽大会 民謡・新舞踊の部
- 1月24日(日) 第49回小中学校教職員チャリティコンサート

【日程変更】

- 10月4日(日) 吟剣詩舞大会:9月27日(日)に変更



今号の一枚

太田邦男
「薔薇」

紙・パステル 22.0×27.0cm
(2020年度卓上カレンダー
9月・10月の原画)

今後の絵画展

2020年11月3日～8日
豊橋・ギャラリー一田園

リレーエッセイ ほっと豊橋

「朱の鳥居の思い出」 —道知辺稲荷神社—

豊田 俊充

私は元々強健な身体ではなかったが、定年後は健康第一を優先とし、生涯趣味を持って生きることになっている。

まず、体力を保持するには散歩が一番と考え、近くの公園の周囲を歩いたり、時には少し離れた桜ヶ丘公園(豊橋市東田町字北蓮田)へも行くことにしていた。

平成10年頃に公園で散歩していた時、今は故人となってしまった元東海日日新聞社社長の長谷川哲男氏と偶然出会った。それ以来、単に挨拶を交わすだけでなく、時事問題などについて話をするようになった。

確か平成11年の秋であったが、長谷川氏と私が挨拶を交わしていた時、丁度桜ヶ丘公園の一隅にある道知辺(みちしるべ)稲荷神社の門前に篤志家による新たな鳥居二基が奉納され、その関係

者が集まっていた。

近隣の住民にも親まれたこの稲荷神社の謂れについては、各種文献を参照していただくとういが、私はその後、長い間桜ヶ丘公園へ散歩することはなかった。

今春に桜見物を兼ねて久しぶりに出掛けてみると、門前には朱の鳥居が三基ともすべて無く、土台だけが剥き出しになっていて、唯々驚くばかりだった。

稲荷様を崇め奉るには甚だ残念…校区の人々が中心となって朱の鳥居が再建されることを望むばかりである。

私にとっても朱の鳥居のある道知辺稲荷神社を中心とする桜ヶ丘公園は、長谷川氏との出会いの場であり、彼から多くの教訓を得た思い出の地でもあるが故に、個人的に感慨深いものがある。



文化団体紹介 Vol.30

邦友会

「書が好き」ということが
原点でありエネルギー!

今回は書道の邦友会さんが行っていた「第24回邦友会書展」へおじゃましてきました。

邦友会は平成7年に設立され、現在会員は30名程度。長い方は10年ほど続けられているそうです。小学生への指導も行い、先生のご自宅や吉田方・小鷹野の市民館で教室を開いています。この「邦友会書展」は初めての4年間はギャラリー48で、それ以降は豊橋市美術館で行っているそうです。

原田先生は幼少期から茶道・華道・書道習っており、結婚される際に「書の道でやっとう」と決心され、ご主人も快諾。結婚されてからは自宅で空いた時間に練習をさせていましたが、下のおさんが保育園に通い始めてから書道塾に通い始めたそうです。しかし、「水野精一先生という先生の字がとても好きで、どうしても水野先生に教えてもらいたいという気持ちから書道塾を出て東京に行く決意をしました。書道塾の先生には『出ていけ!』と叱られてしまいましたが、主人は『才能があれば男も女も関係ない』と後押ししてくれました。それでもやはり…と新幹線を見送って迷った末東京へ。その時に新幹線から見た富士山は雲一つなく、とても美しく『やはり間違っていない』と思わせてくれました。」と感動的なお話を聴かせていただきました。水野先生の元を何度も訪ね「弟子にしてください」とお願いするも、「自分でやっといきなさい」と…最後には「待てますか?」と言われ、帰ってきたそうです。この時ご主人は「水野先生はおまえを見捨てはしない」と励ましてくださったそうです。

そして設立した邦友会。当時高校生だった息子さん「邦」という字が好きで名付けたそうです。「『豊橋一になるね!』と息子に言うとうい、違うよ」と。「じゃあ、愛知一になるね!」と言うと再び「いや、違うよ」と。「じゃあ、日本一になるね!」と言うと息子は『お母さん、違うよ、世界一だよ!』と言ってきて、迷っていた心が晴れました。」と、とても素敵な話を聴かせていただきました。

邦友会を設立して7年経った頃に水野先生から「明日、目黒の日本書道専門

学校で錬成会がありますが、来られますか?」と連絡があり「行きます!」と即答されたそう。「今、水野先生に見放されたくない!」という気持ちから毎週通ったそうです。水野先生が亡くなられてからはそのお弟子さんにつき、しばらく東京に通っていたそうです。その後フランスの「ル・サロン」という芸術家協会に2度出品し、2回とも入選を果たされたそうですが、「『本当に自分が入選したの?』と信じられなくてフランスのグラン・パレまでひとりで見に行っただけです。」と笑いながら話されていました。

「『書が好き』ということが原点でありエネルギーですね。どの先生にもつかずに会を設立したのでとにかく手探りで必死でした。水野先生にご連絡をいただくまでの7年間、何も頼るものがなかったので強くなりましたね。でも、書をやる辛さの方が書が続ける大変さよりも大きいと思ったのでなんとかやってこられました。書に限らず、何か身につけると強みになりますし、何か嫌なことがあっても乗り切れますよね。書道塾の先生に『出ていけ!』と叱られたから『負けるものか!』という意地、というか、強い意志のようなものがありました。だから、書道塾の先生には感謝しています。」と、力強さを感じたお話を伺いました。「私は書の型にはとらわれません。変わったものや、表現することが好きです。例えば、『りんご』ならその字で『りんご』を表現するんです。この『仏手柑』はここが『ふ』でここが『つ』で…」と原田先生ご自身の作品の解説もしていただき、より作品の素晴らしさを感じることができました。会員募集されているそうですので、ご興味のある方はぜひ事務局まで。





市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合せまでご連絡ください。

※この予定表は予告なしに変更になる場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

9月

Table of events for September, including 第774回邦楽鑑賞会, 西村能舞台古, 令和2年度豊橋総合動植物公園秋の写生大会, 東陽ふれあい音楽会, 豊橋文化祭開会式典, 西村能舞台古, 桜丘学園吹奏楽部特別演奏会, 東陽ふれあい音楽会.

10月

Table of events for October, including 第47回豊橋市民お月見会, 第775回邦楽鑑賞会, 映画「二宮金次郎」豊橋上映会, 第45回作陶展, 東陽ふれあい音楽会, 豊橋総合いけばな展, サポテン展, 日曜短歌会, 水曜短歌会, 第50回俳画展, 舞踊龍城流発表会.

豊橋の文化活動—アーカイブス②

～豊橋文化協会発足の頃／レコード・コンサート～

豊橋文化振興財団の前身である豊橋文化協会は、戦禍で焼野原となった郷土豊橋に一坪の花園をつくり、愛知県商工経済会支部長の神野太郎氏を中心に有志が集まって昭和21年2月23日に豊橋市立図書館で発会式をあげて発足しました。



焼野原と化した豊橋市街

戦争が終わって解放されましたが、家や食料や着るものもなく、暗い不安のどん底のなかで市民は生きてゆく心の糧を求めていました。

焼け残った経済会支部の片隅に、机と椅子を借りて事務所を開きました。

記念すべき最初に行った文化事業が2月24日に開かれた「レコード・コンサート」でした。会場となった図書館ホールの3階の窓からリストの《レ・プレリュード》やメンデルスゾーンの《バイオリン協奏曲》が、廃墟となった町中に響きわたっていたそうです。



豊橋市公会堂(左)と豊橋市立図書館(右)

この「レコード・コンサート」は、会場を吉田会館や豊橋商工会議所、商工貿易館や文協会館(石塚緑風荘)などに移して、様々なジャンルを対象に開かれるようになり、昭和37年3月9日の第560回「ジャズ」まで続けられました。

以後、「レコード・コンサート」は豊橋市主催事業となり豊橋市図書館に引き継がれ、平成3年より「SPレコード・コンサート」として豊橋市中央図書館で新たにスタートし、平成26年11月1日の第24回まで開催されました。

豊橋文化通巻345号(昭和30年5月1日)に掲載された豊橋文化協会10年の歩みを題材とした「初年度の行事(二)」の記事のなかで、西進策(河合陸郎)が次のように述懐しています。

「…昭和21年といえは豊橋文化協会がまだ正式に発足したばかりの年である。創立総会を開いて正式に発足したのが昭和21年2月23日であることは既に、前に記した通りである。当時の豊橋は、現在の豊橋駅あたりからズーッと市内を見渡すと何ものも目をささざるものがなく、東田の坂上まで眺めることができたものである。大きな建物といえば焼けのこった豊橋市公会堂と額ビルぐらいのものであった。余熱冷めやらぬ市街に復興気分にならざりた市民がせせとバラック建設に真っ黒になって働いていた。ものの値段がまるっきりかわってきた。つい昨日まで5銭か10銭であったものが5円10円となって、なんだかだまされていやしいかと思う程物価が旧増しに、丁度、羽が生えてとびたつようにあがっていった。タバコや食糧、衣類の配給に目の色をかえて、どこかの配給所にも延々と長蛇の列をつくっていた。そして、その人たちはみんな青しよびれていて疲れきっていた。各家庭では配給やヤミで仕入れた玄米を一升トツクリのなかへ入れてコツコツと搗いたり、タバコ巻き器なんてチャチな道具をつかってイタドリと称したタバコまがいのヘンな葉っぱを丹念に巻いていた。タバコを巻く紙もいいのがないというので、辞書類の紙が使用された。戦争中盛んに売れたマレー語辞典などというのが、惜しげもなくつぶされて家庭用の巻きタバコの紙につかわれたものこのごろであった。思えば淋しい、悲しいころであったのだが、よくもこれだけの仕事(文化協会事業)をしてきたものとまことに感慨深いものがある。」



第22回SPレコード・コンサート会場風景

豊橋市表彰

今年度の市勢功労者及び教育賞・教育奨励賞・スポーツ賞・スポーツ奨励賞・文化振興賞の受賞者が発表されました。八月二日に穂の国とよはし芸術劇場プラッツで行われた市制施行日記念式典にて表彰されました。

市勢功労賞(文化振興)

吉田文楽保存会

永年にわたり飽海人形浄瑠璃の公演を定期的に開催されたほか、市民大学トラムでの講座などの諸活動を通して市民の伝統芸能に対する関心を高めることにも、地域伝統文化の保存継承に尽力されるなど、文化の振興に大きく貢献されました。

文化振興賞

山口泰弘さん

永年にわたり、華道家として制作・発表する傍ら、各地でデモンストレーションや講演会を開催し、多くの後進を育てるなど地域の華道文化の普及に貢献されました。

鈴木良昌さん

永年にわたり豊橋調理製菓専門学校代表として、調理師、製菓衛生師を育成する傍ら、歴史や風土が育んだこの地域の食文化の講義を様々な学校で行うとともに、村井弦斎の小説の再現レシビを紹介した食道楽豊橋版の監修を行うなど、地域の食文化の普及発展に貢献されました。

豊橋マンデナナイトジャズオーケストラ

毎年、豊橋文化祭の協賛事業として無料の定期コンサートを開催している。優れた演奏技術と企画性の高いコンサート内容によって、数多くの来場者を集めるなど、永年にわたり地域の音楽文化の振興に貢献されました。

文化振興特別賞

故菊田守さん

詩人として活動するとともに、永年にわたり丸山薫賞選考委員を務め、丸山薫賞の普及発展に努めることにより、地域の文芸文化の振興に貢献されました。

文化短信

令和二年六月の豊橋文化短歌会には出稿者の作品を全て掲載。コロナ禍のため、水曜・日曜とも歌会が中止になりましたが、会員の皆さんに投稿のお願いをしましたので、投稿された作品を全て掲載します。

水曜短歌会

突然にクローズアップされ戸惑いマスクは今日もマスクを音もなく落つる楳のはかなさを老いに入りたる吾すべもなし 金澤もとあ 頂きしどくだみの香が通りぬけ彼が値を抜き友洗いし 河合益代 静いを避けて静かにしています堪忍袋の口少し開け 西郷賢谷 三枚目の休会の葉書届きたり 弥生・卯月・五月を詠めず 篠田武子

山口泰弘さん

この世の止まぬ災禍の春の崖幣のごとくにヤマボウシ咲く 洲淵智子 公園で擦れ違ふ人ゆうらりとポケモンGoの世界没れり 内藤よし胡 踏切の遮断機降りて電車待つ空の車輪は玩具のごとし 中島タエ子

鈴木良昌さん

短夜に朝のこともおぼつかずちくちくちくと布マスク縫う わだかまり一つ抱えてまどろむ夜宵戸に雨打ちとらるる消さる 成島孝枝 赤黄桃仏壇に供えしガーベラに横顔しのお祖母の命日 長谷川公代 色褪せし雑誌の挿絵横写しつ 少年にかえる心地懐かし 原田敬子

豊橋マンデナナイトジャズオーケストラ

わが庭の「隅田の花火」は地に低く思ひのかぎり白を掲げる 澄子 日曜短歌会 おほかたは不要不急と思ひ知るただ黙々と三食つくり 池田あつ子 満月とスカイツリーの写メのルに「フラワームーン」ふふふほほ笑む 岩瀬美子

文化振興特別賞

故菊田守さん

あそび星の防衛費全てつきこんでトクやナスや我らを防衛 宇佐美幸枝 うぐいすの声届かぬも梅園に競ふがに聞く鶯宿梅の香 岡田宏子 「外出自粛」終りて出て来し街路樹の若葉のみどりわが目に眩し 岡田米子

文化短信

ながら族 新聞読みつつ食事する本読みながら居眠りもする 西郷賢谷 満ちたら引きゆく仕度する水よすつとすつと満ちていよいよ 真道富久代

水曜短歌会

糸の切れた風船のやうな飛行機コロナの空を飛んでゆきけり 鈴木昌宏 臆病が自粛解除に失せゆけば遠くなりゆく死者たちのこゑ 丹羽智子 夕暮れに「サマタイム」が流れてきて自粛の日々の憂さを暮らす 横田隆介

山口泰弘さん

白南風や遠きまなざし嶺山像 佐藤山像 白南風や鳴の白き腹見上ぐ 大河みち 白南風の浜に四駆のタイヤ跡 河合澄子 紫陽花や通学団の児等の傘 山中たけし 白南風や懐メロを聴く昼下り 白井みち子

鈴木良昌さん

紫陽花の窓全開にテレワーク 林はるみ ヌツカ咲く石垣動き武家屋敷 彦坂艶子 老鷲や間引きタイの無人駅 藤田源一 一角に発電ハネル青田波 高橋良子

豊橋マンデナナイトジャズオーケストラ

白肅から絆できたり離れたり 佐藤文児 周囲との絆大切生きる知恵 波多野律子 逆風に家族の絆身に沁みる 来本芳子 親子でも切りたい時もある絆 郡山弘子

文化振興特別賞

故菊田守さん

切れかけた絆子供の目が結ぶ 戸沢はたる 虹が立つ明日の一步へい兆し 寺部水川 いい兆しだけを信じる神頼み 青嶋由紀美 おめでたの兆し家族が浮かれます 高柳閑雲 コロナ禍の収束願ひ式子約 小松くみ子 予約なしコロナに地震大雨と 山岡タカシ 片減りの靴も小躍りする予約 鈴木順子